

要求実現の力をもつ
労働組合をめざし
全国で組織建設と
拡大をすすめよう!



発行所
JMITU
(日本金属製造情報通信労働組合)
〒114-0023 東京都北区滝野川
3-3-1 ユニオンコーポ3階
電話 (03) 5961-5601~2
FAX (03) 5961-5603
※組織外、無断転載禁止

核兵器廃絶へ世界が連帯—JMITU代表・長崎へ30人 「ヒバクシャ国際署名」1万筆まであと4,374筆



午前の遺跡めぐりの後、軍艦島に上陸 (8月8日午後)



7月7日の国連での核兵器禁止条約採択からちょうど1カ月後の原水爆禁止世界大会(長崎)。JMITUからは青年・女性はじめは全国から30人の代表が参加しました。大会は、核兵器禁止条約の採択という歴史的情勢のもと、核廃絶への市民の運動への熱烈な連帯を表明した国連事務次長(軍縮担当上級代表)の中満さんや田上長崎市長、国連会議でイニシアチブを発揮したホワイト議長(コスタリカ)からのメッセージなど、国内外7000人の連帯と決意の場となりました。

8月6日の開会総会では、北海道から東京までを通し行進した五十嵐さんとともに登壇。「今年ものべ500人以上の参加で東京から広島までリレー旗をつなぎました」と報告。全国の通し行進者とともに会場の拍手を受けました。

5月からとりくんでいる「ヒバクシャ国際署名」は目標の1万筆まであと4,375筆のところまでできました。

原爆の怖さ、平和の大切さ広げたい

原水爆禁止2017年世界大会(長崎)代表団員の感想より

禁止条約に賛同できない日本が悲しい

今までどこか「遠いもの」と思っていた戦争・被爆。長崎の地で原爆遺跡にふれ、「近いもの」であること、「日本人として忘れてはならないもの」であると、考え方を改めました。唯一の戦争被爆国である日本が核兵器禁止条約に賛同できない現状を悲しく思います。世界大会を通じ、世界平和へと一歩でも近づくことを願います。(東京・浅野一朗・30歳)

強力ではあるが完璧ではない

大会中印象に残ったのは、条約について「強力であるが完璧でない」という発言です。唯一の被爆国であり核兵器廃絶へリーダーシップを発揮しなければならない日本が不参加であるため、各国代表から日本政府に呼びかけるようお願いされることもあり深く考えさせられました。(長野地本・カネテック支部 滝澤優・23歳)



吹き飛ばされた大浦天主堂の鐘楼 (左下)

残業時間規制へ全国で統一要求提出へ

2017年秋闘 各地で討論集会 9月20日いっせい要求



東京東部地協は24日、秋闘討論集会をおこない、班に分かれ「職場討議」(写真上)。「戦争にならないためにはどうしたらいいか? 何ができるか?」「有給休暇が消化できるようにするにはどうしたらいいか」「労働法制改悪阻止でストライキに入れるか」など活発に討論しました。28日(月)には地協の役員がリレーで支部をまわり、執行委員会がおこなわれます。

JMITUは2017年秋闘(統一要求日9月20日、回答指定日10月4日)に向け、各地で討論集会を開催しています。7月の定期大会で採択された今年度運動方針の基調は、「始まった『前進』を大きな流れにしよう! すべてのたたかいを組織拡大強化へ」。17秋闘はそのスタートのとりくみです。

安倍政権による9条改憲、「働き方改悪」を許さないたたかいを強めるとともに、対経営者に対し「本物の『働き方改革』を実現する統一要求書」を提出。時間外労働を取り決める36協定での「特別条項を設けない」「労働組合との事前協議」、「本人希望による有期雇用労働者の無期転換・正社員化」、「継続雇用労働者の賃金・処遇改善」などを求めています。

9月上旬には、確約交渉、リレー執行委員会などがおこなわれます。

「JMITU」(メールニュース版)は、毎月25日付での発行です。通常号とともに職場のたたかいや経験を、随時発信していきます。支部執行委員はじめ、職場のみなさんに届けてください。